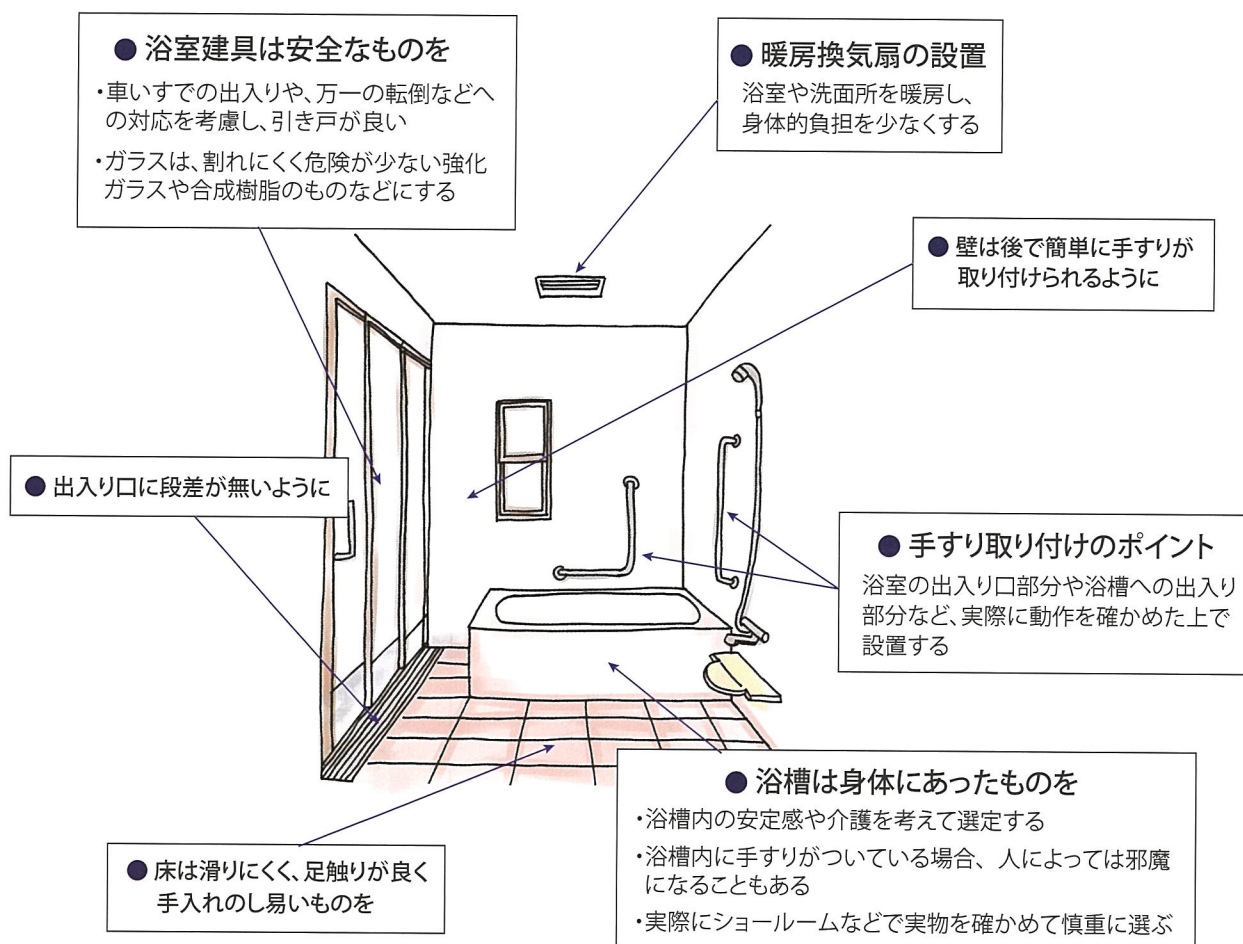


(5) 浴室

浴室では、転倒による怪我や温度差による血圧の変化などから生じる重大な事故が発生する危険性があります。

快適性、使いやすさ、介助のしやすさだけでなく、安全性への配慮が特に求められることから、身体状況を十分考慮した上で、段差の解消、手すりの設置、安全な材料、引き戸の取り付けなどを行うことが大切です。



ワンポイント

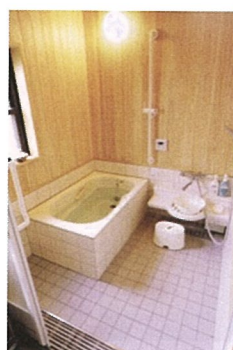
◆ 浴室の改修事例



・バスユニット



・壁は在来工法
・床と浴槽部分はユニット



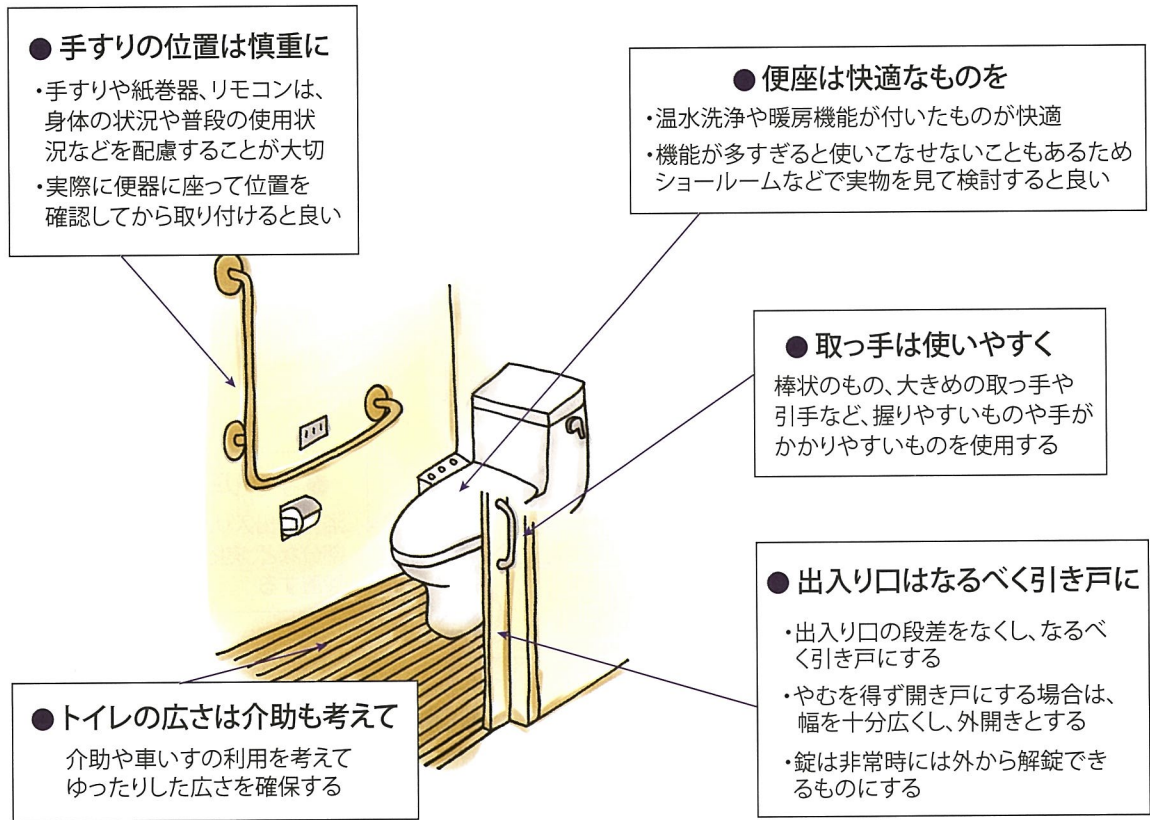
・在来工法

◎ ユニットバス
脱衣所と床の段差がなく、樹脂製の床は冷たくないで、最近ではユニットバスが使われることが多くなった。

(6) トイレ

トイレは、誰もが、身体機能が低下しても、可能な限り自分の力で利用したいと願っています。適切な手すりの設置、段差の解消、引き戸の取り付けにより、安全に、安心して使えるようにすることが大切です。

介護が必要な場合や車いすでトイレを利用する場合は、出入り口まわりやトイレ内部の広さの検討も必要となります。トイレが寝室の近くにあると、本人の利用(特に夜間)や家族の介護などがより楽になります。



ワンポイント

◆ トイレの改修事例



洗面台とトイレを一緒にして広くした

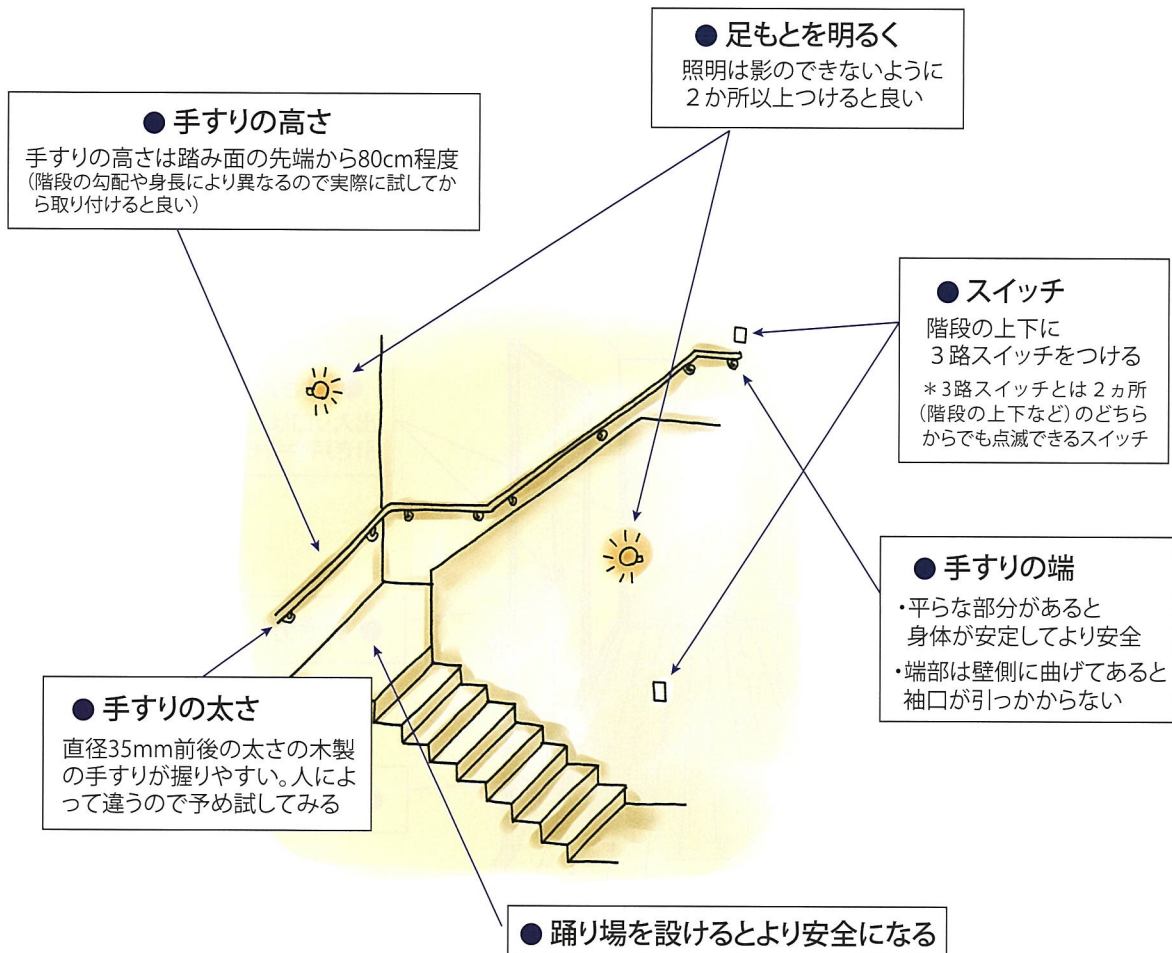
内開き戸を外開き戸に改修した事例



- ・引き戸への改修が困難なため、外開き戸にした
- ・床段差を取り、ドア幅を開口いっぱい広げた
- ・行動や介助のしやすさが格段に向上した

(7) 階段

階段からの転落は重大な事故につながるため、適切な位置や形状の手すりをつける事が大切です。階段を改修する場合にはできるだけ緩やかな勾配にすると、上り下りが楽になり、より安全になります。



※改修する場合は大規模な工事を伴い、高額な費用がかかる事もあります

ワンポイント

◆ 階段の改修事例

◎ 階段をより安全に

- ・踏み面の幅: 24cm以上が望ましい
- ・溝を切ったりして
滑り止めの工夫をする
- ・蹴上げの高さ
: 20cm以下が望ましい
- ・爪先が引っかからないように
角を取ったり出っ張りを少なくする

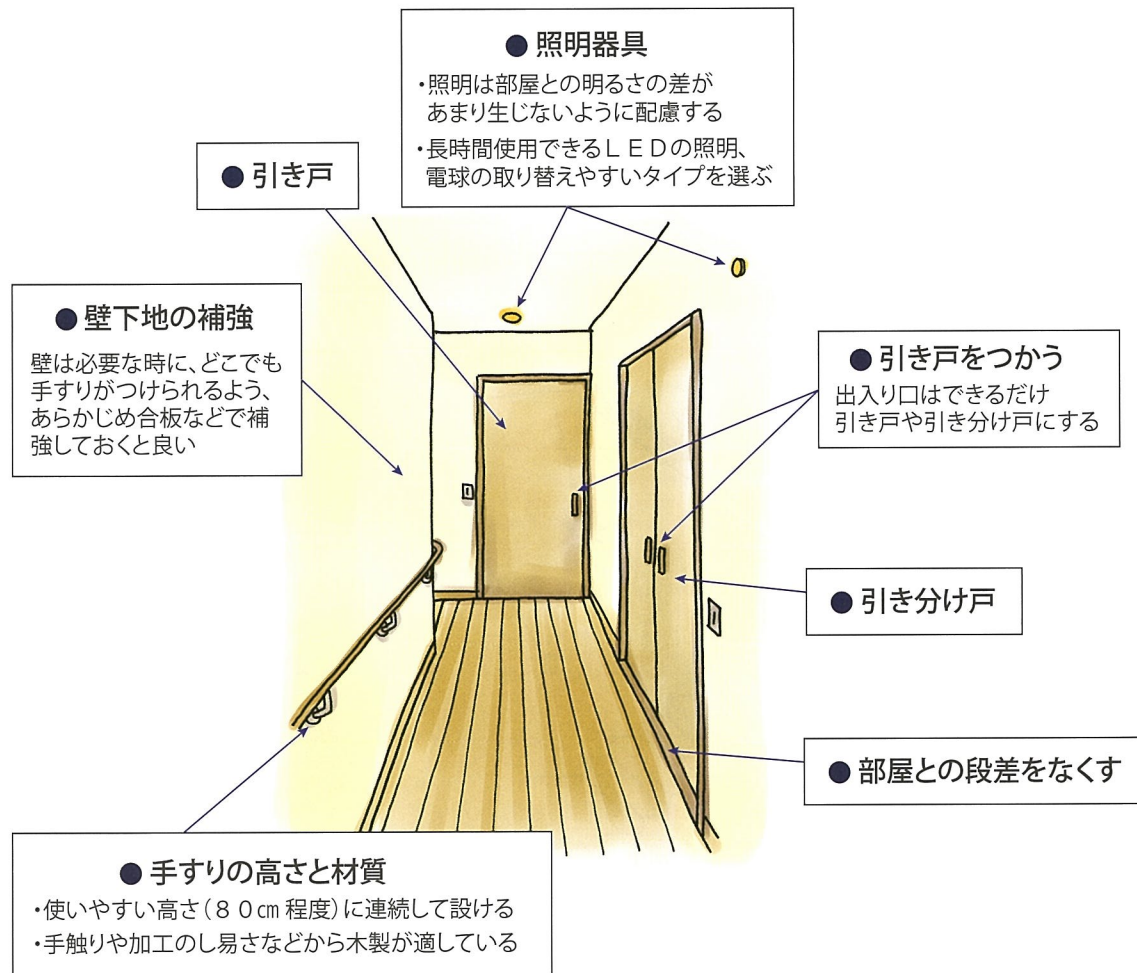
急勾配の階段を改修した事例



上部の回り階段を撤去の上、段数を2段増やし勾配を緩くした。手すりも設置した。

(8) 廊下

廊下での転倒を防ぐために、床に物を置かないことや手すりをつけることなどの対応が大切です。照明器具の設置にあたっては、暗がりがないように配慮することが大切です。



ワンポイント

◆ 車いすの場合の配慮点

一般的な車いすは、約76cmの幅(柱間が半間)の廊下を曲がることは困難です。

引き分け戸を設けることで、部屋の前に回転できるスペースを確保するなどの工夫をします。

